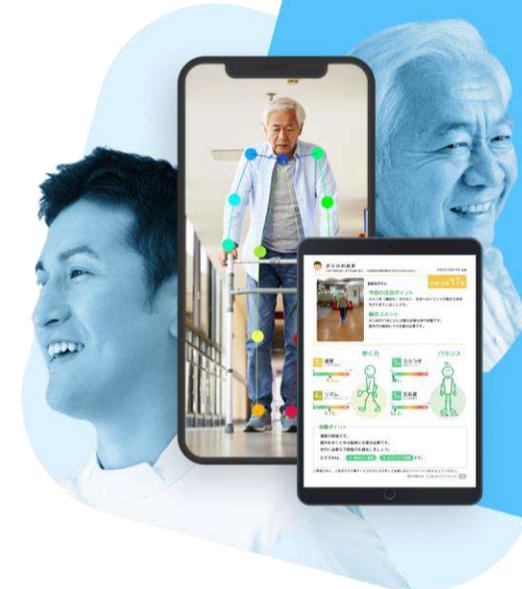




CareWizトルト

# トルトでアセスメント！

福祉用具選定でトルトを活用する方法



トルトを使って歩行補助具を選定することで、

「福祉用具事業者が行うアセスメント」がいかに変化するのか、準備・実践のポイントとともにまとめました。

導入を検討されている方も、既に導入済の方も現場におけるトルト運用のご参考になれば幸いです。

1. なぜトルトが歩行補助具の選定に有効なのか？
2. 撮影に関するポイント
3. コミュニケーションシートの解説
4. まとめ

なぜトルトが歩行補助具の選定に有効なのか？



安心・納得して福祉用具を導入するためには根拠ある評価が必要です

転倒リスクの判断基準は人によって異なる  
言葉で説明すると理解度や解釈は人によって異なるから・・・  
「見立て」は人によって異なるから・・・

【トルトを活用すると】

- 「なぜ歩行補助具を使用すべきなのか」納得して導入できる！
- 数値や動画データをもとに説明することで説得力アップ！
- 職種や経験値に関係なく、共通指標になる！



ご利用者やケアマネジャーへの説明の説得力が増して、  
サービス導入されやすくなる。

## まずはスムーズに撮影できるように準備を整えましょう

### 01.訪問前：「利用者を登録」から利用者氏名を登録しておきましょう

- 訪問時、スムーズに撮影ができるよう利用者名を登録しておきます
- ケアマネジャーが同行する場合は、事前にトルトの説明をしておくとう訪問時の撮影がしやすくなります

### 02.訪問時：利用者・家族へトルトの使用目的や効果を説明しましょう

- まずはトルトで歩行動画を撮影することで**自身の歩行状態を動画で視聴できること**、現在の歩行状態を評価し**転倒予防につながることを説明**します
- トルトのチラシを活用すると説明もスムーズです

### 03.撮影前：撮影の同意を取りましょう

- 署名、または顔写真で同意取得をします
- スマホの場合は「個人情報保護基本方針」を印刷して説明するとわかりやすいです

同行の有無にかかわらずメールアドレスを聞いておくと、  
情報共有の効率化に！



## 撮影する際の3ステップ

# 歩行動画と解析結果（レポート）をもとに評価を伝えましょう

### 01.撮影：約5mの片道直線を歩いてもらいましょう

- 普段の歩行状態を解析するために「いつも通りの歩行で！」と声掛けしましょう
- 3m程でも解析可能ですが、廊下や玄関先など、直線距離が長くとれる場所で撮影するのが精度を上げるポイントです

### 02.動画投稿：投稿後、分析を待っている約2分はコミュニケーションタイム！※

- 撮影の撮り直しを避けるために、端末のカメラアプリで事前に撮影・保存をしましょう
- 待っている間に商品説明等をするとう効率的です

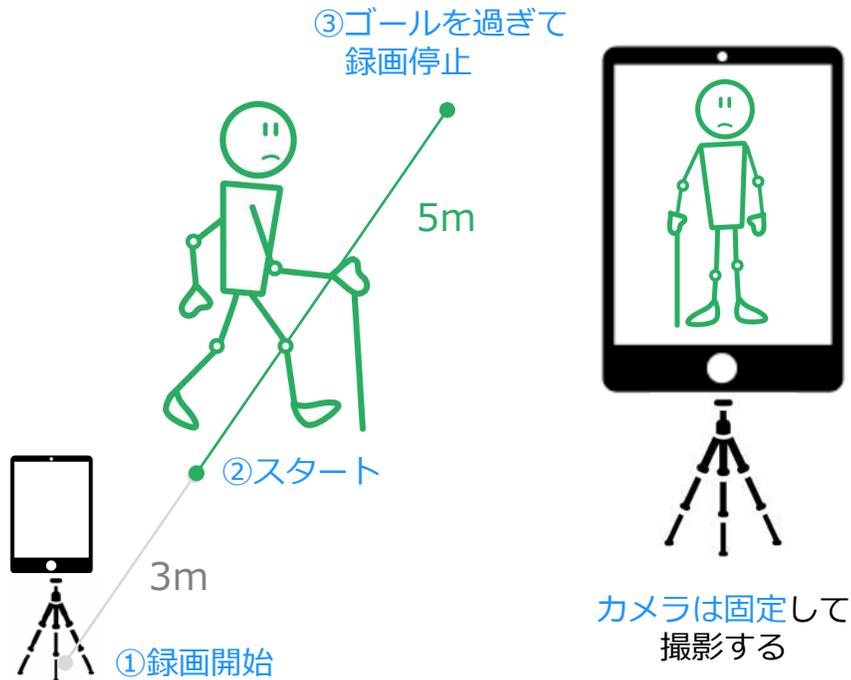
### 03.分析後：分析結果を一緒に確認しながら評価結果を伝えましょう

- 動画とレポートを見ながら気づきポイントを解説しましょう
- 動画・レポートを共有できるよう、メールアドレスを聞いておきましょう

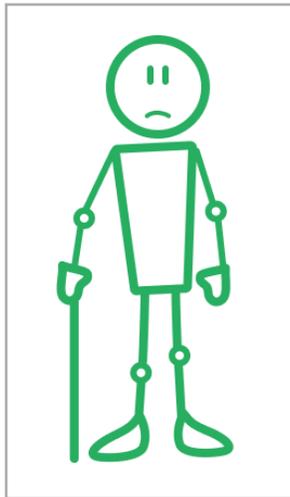
※分析にかかる時間はネットワーク環境、動画の容量により異なります。

# 端末を固定し対象者が画面の中心をまっすぐ歩くように撮影

## 撮影時のポイント



スタートラインの外側（1m離れたあたり）に立ち、ゴール位置を抜けるまで歩いてもらう



画面に大きく映るよう撮影する  
**ズーム機能OFF**

## NG例と対策

<p>対象者の全身が映っていない</p>	<p>対象者が中心にいない</p>	<p>カメラに向かって直線に歩いていない</p>
<p>解決策 全身が映るように撮影する</p>	<p>解決策 中心を歩く</p>	<p>解決策 まっすぐ歩く</p>

# 解説のポイント



2パターンの動画を比較し、  
用具を使用するメリットを説明しましょう



2パターンの解析結果を比較し、転倒のリスク  
軽減が期待できることを説明しましょう

パターン1、2の解析結果を見比べる

例)

パターン1：歩行補助具なし

パターン2：多点杖使用

例)

パターン1：1本杖使用

パターン2：歩行器（キャスター付）使用

## 例：歩行器を利用することで「ふらつき」が改善

「リズム」なども改善していますが「ふらつき」が  
一番改善される可能性が高い項目です。

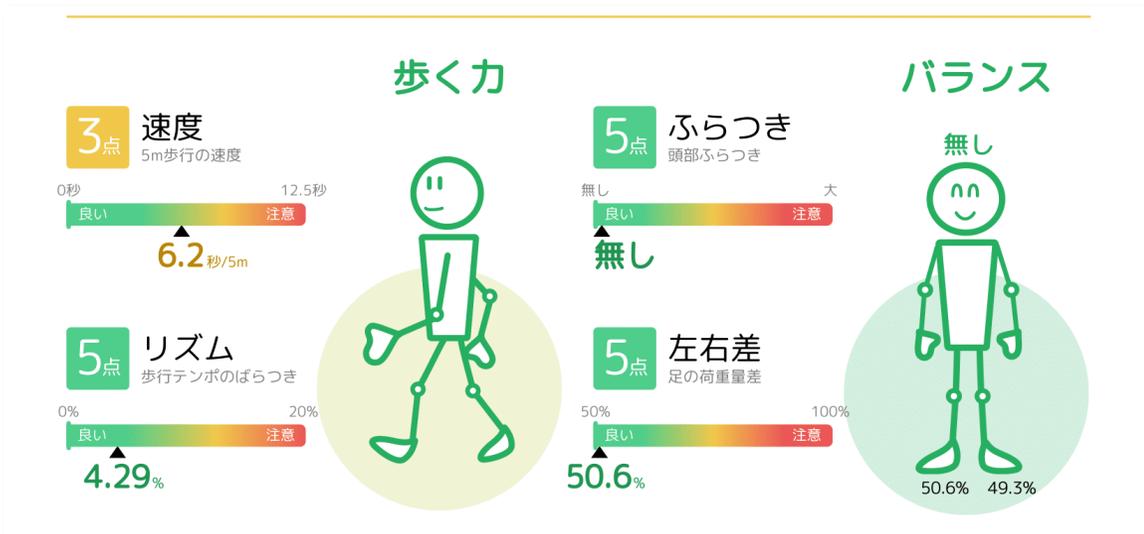


独歩の結果



歩行器の結果

## 転倒に関する4つの項目



どの項目の数値も、値が小さいほど良く、  
1～5のスコアについては、スコアが高いほど良い。

### 速度

5mを何秒で歩けるかを表す

秒数が短いほど良く、3.85秒より速いと良い歩行状態

※従来は速度の↑↓の説明のみにとどまることが多かった

### リズム

歩行のテンポのばらつきを表す

値が低いほどリズムの良い歩行状態。5%未満で安定した歩行状態

### ふらつき

頭と体の左右への揺れの大きさを表す

大・中・小・無しの4段階。ふらつきなしまたは小がバランスの取れた歩行状態

### 左右差

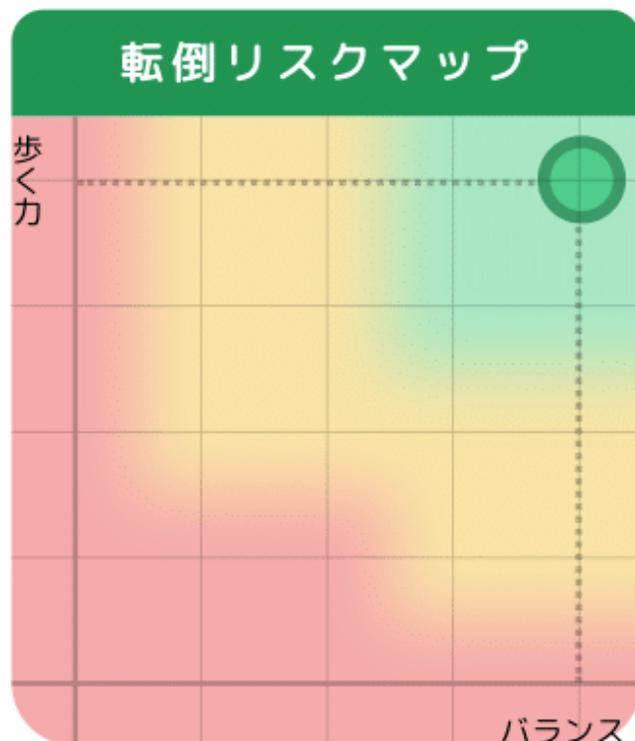
左右の足で支える時間の割合を表す

左右とも50%に近いほど良い歩行状態

## コミュニケーションシートの転倒リスクマップ

転倒リスクマップは、「歩く力」と「バランス」で構成

転倒に関連する「速度・リズム・ふらつき・左右差」の項目のうち、  
「速度・リズム」は歩く力、「ふらつき・左右差」はバランスと関連しています。



### 転倒リスクマップと配色について

- 緑◆ : 転倒リスク低
- 黄◆ : 転倒リスク中
- 赤◆ : 転倒リスク高

※ こちらはあくまでも目安、絶対に正しいという保証はありません。

## 歩行補助具の選定以外でも、アセスメントでは動画を活用しましょう

### シーン1. 浴室やトイレ、ベッドまわり等のアセスメント

例) 浴槽の跨ぎ動作を撮影し、浴槽台やバスリフトを提案する

- 実際の動作を確認（一緒に視聴）した方が、今ある課題が明確になります
- その場に同席できない家族・ケアマネへ後から共有することで、提案後の情報共有がスムーズです

### シーン2. 住宅改修の家屋調査

例) 玄関先の手すり設置をBefore/Afterの動画で報告する

- 設置前後で利用者の動作がいかに変化（改善）したかを明確に伝えられます
- 提案内容、実施したことがリアルな情報として伝わります



トルト

撮影情報を選択

タイトル

機械浴の使用方法

歩行分析 **必須**

歩行分析を行う

歩行分析を行わない

完了

トルトを活用することで歩行補助具選定する際に根拠のある提案を行いやすくなります

### 撮影前・撮影する際の3つのステップ

- 撮影をスムーズに実施するために事前準備をしっかり行いましょう。

### 撮影した結果を関係者に説明

- トルト活用することで、数字を活用した根拠のある提案を行うことができるようになります。
- その際、福祉用具の使用前、使用後の動画を活用すると伝えやすくなります。

※分析結果をどう伝えるかは福祉用具相談員の腕の見せ所になります

### 歩行以外の動画もトルトで撮影する

- 工夫次第で歩行動画以外のアセスメント時にも活用できます。  
住宅改修の家屋調査や浴室やトイレ、ベッドまわり等のアセスメント時に、  
家族や関係者への情報共有としても活用できます。



他にトルトに関する活用方法はこちらでも  
紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://product-faq.qontextual.jp/user/dirfaq?directoryId=23304&orderBy=2#toruto>